

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波

# 京丹波

No.51  
2010年  
1月15日発行





今月の表紙

今年1年が皆様にとって幸多い年であることを願って、干支の「トラ」と、特産の「小豆」「栗」「黒豆」を使って新春の表紙を飾りました。

## 京丹波 No.51 CONTENTS

- 2 新春ごあいさつ
- 4 '09京丹波の主なできごと
- 5 親子のコミュニケーションをはぐくむ「ころころクラブ」
- 6 ホークスベリー市から5人の留学生が来町 深まる姉妹都市のきずな
- 10 Dr's Message いきいき健康術
- 11 人の動き 地域の伝言板わくわくBOX
- 12 **フラッシュ** TOWN NEWS 2010
  - 選挙制度120周年を記念して総務大臣が感謝状を贈呈  
—丹波町選挙管理委員として貢献された藤田明夫さんが受賞
  - 食を通じた都市住民との交流  
—農家が教える郷土料理塾
  - お互いが対等な立場で恋愛を  
—ざらりセミナー☆Ⅲ
  - 浦生野中ホッケー部が日本代表選出を輩出  
—谷口捺美さんが日本代表選出を報告
  - オリックスパファローズの岡田監督が講演  
—生涯スポーツ講演会
  - こんやく作りで親子のきずなを深める  
—親子体験教室
  - 須知高校が水車発電でエネルギー教育賞を受賞  
—エネルギー教育賞
  - 高記録目指して力走  
—京丹波町駅伝競走大会
  - 悪徳商法による消費者被害を防ぐために  
—消費者被害見守りバレード
  - 夢と感動を与える光のオブジェ  
—冬ほたる2009
  - 力を合わせて豪快に作る大しめ縄  
—京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作り
  - 人権の大切さを伝えるために  
—一人権週間における街頭啓発
- 16 【まちの元気人】谷 峰男さん

京丹波町長 寺尾 豊爾



町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成二十二年の輝かしい新春をお迎えになりましたこと、心からお喜び申し上げます。

昨年十一月十五日の町長選挙におきましては、多くの町民の皆様からのご支持とご支援をいただき、京丹波町長として町政運営をあずかることになりました。町政運営に携わるのは初めてですが、責任の重さを深く受け止め、公平公正を基本に、町民の皆様への思いや意見を伺いながら、京丹波町のさらなる発展のために全力を尽くす所存であります。

さて、昨今の地方自治体を取り巻く情勢は、経済環境の悪化や国の動向が不透明なことなどから、財源の確保がますます

す厳しさを増すことが予想されます。そのような中、財政健全化対策を推進していくためには、最小の経費で最大の効果が発揮できるよう行財政改革に積極的に取り組む必要があります。常に問題意識と目標達成に向けた意欲を持ちながら、職員と共に町民の皆様のための行政運営を行ってまいります。一方、こうした厳しい状況ではありません

が、町民の皆様への安心を守る地域医療の充実や瑞穂地区の統合小学校整備など、町の活性化に欠かすことのできない事業は町総合計画に基づいて積極的に進めてまいります。

わたしが考える町政運営の基本方針は「安心」「活力」「愛」のあるまちづくりであり、町民の皆様が誇りと愛着を持って暮ら

新春ごあいさつ



# 「安心」「活力」「愛」のあるまちづくりを目指して

「愛」のあるまちづくりでは、平成二十三年四月の開校を目指した瑞穂地区統合小学校の整備、地域の特性に応じた魅力ある地域おこし活動への支援などに努めてまいります。

今後の町政運営は、町政懇談会などを通じて、町民の皆様と意見交換の場を一つでも多く持ちながら進めてまいりたいと存じますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

後になりましたが、今年も、町民の皆様にとりまして、幸せ多い年でありまことに心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。



新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、平成二十二年の輝かしい希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えになられましたこと、議会を代表し、心からお喜び申し上げます。また、日ごろは、議会活動に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年の十一月十五日に行われました町議会議員選挙におきまして、新たに十六名の議員が選出され、不肖私が京丹波町議会第二代会長の重責を担うことになりました。町民の皆様のご期待とご信任をいただき、町民の福祉向上と地域社会の活力ある発展を目指し、なお一層、議員一丸となって取り組んでまいります。

さて、わが国は、依然として長い不況から抜け出せず、また、政治、経済、社会、教育などあらゆる分野で混んとした状況が続いており、将来に明るい展望が切り開けないでおります。だからと言って手をこまねいてばかりはいられません。

閉そく感や停滞感を打ち破り、そして、安らぎと心にゆとりを持った真に豊かな時代にするには、経済的な豊かさばかりを追求するのではなく、一人ひとりの勇気ある第一歩が必要となってきています。

地方財政は大変厳しい状況にあります。地域のことは地域で対応し、その責任を負うという地方分権の時代にあつては、地方議会の果たす役割は極めて大きく、かつ

重要となっております。そのような中、急速に進む少子高齢化や深刻な環境問題をはじめとする多くの困難な問題に直面しておりますが、私たち議会も、「人のぬくもりとふれあい」が奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波」の実現のため、行政と連携を図りながら、町民の意思を反映させ、さらなる創意工夫を重ね、皆様方のご期待に応えられるよう決意を新たにしております。

町民の皆様には、一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。ととも、この一年が、皆様方にとって幸多い年でありましよう心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

京丹波町議会議員 西山 和樹





「こころろクラブ」はベビーマッサージ教室としても知られており、マッサージを通じた親子のスキンシップを図る場、参加者同士が交流の輪を広げる場として毎月開催しています。

多くのみなさんと意見交換をしながら楽しく子育てができるよう、乳児の子育てをしているみなさん、ぜひご参加ください。



助産師の指導を受けながらベビーマッサージを体験する参加者 (町健康管理センター・須知)

出生数が少ない本町では、子育て支援センター事業への参加や入園などをするまでの乳児期に親同士が知り合う機会が限られており、育児で孤立する可能性があります。そのような現状を踏まえて取り組んでいるのが「こころろクラブ」です。

同クラブでは、生後2か月から六か月までの乳児とその保護者を対象に、助産師の指導を受けながらのベビーマッサージ実習や育児相談などを行い、乳児期の育児を支援します。

特に、ベビーマッサージを行うことで、乳児は親への信頼と安心を感じ、お互いの心の結びつきや親子のきずなを強めるとともに、肌と肌のふれあいにより精神的に安

定し、夜泣きや便秘解消などにつながります。ほかにも、乳児の血行やリンパの流れの改善、自律神経や内臓の働きをよくする効果があります。

また、ベビーマッサージの実習などを行う中で、参加者同士が顔見知りになり、育児の不安や心配ごとなど、同世代の乳児を子育てする親からの情報を得ることで不安解消につながることも、親同士の連携が図れます。

なお、本年度の開催日などは次のとおりで、「広報お知らせ版」の健康カレンダーでも毎月の開催日などをお知らせしています。

### 「こころろクラブ」の開催日

- 開催日 平成22年2月25日(木) / 3月18日(木)
  - 開催時間 午前10時～11時
  - 開催場所 町健康管理センター(須知)
  - 対象 生後2か月～6か月までの乳児とその保護者
  - 持ち物 バスタオル、着替え
- ※オリーブオイルを使いますので、必ずご持参ください。



一人で悩まないで相談ください

子育てを楽しむには、不安や心配事などをひとりで抱え込まずに、多くの人に相談しながら解決することが大切です。

こころろクラブは、乳児相談や乳児健診とは違い、親子のふれあいを楽しむ場として開催しています。気楽な気持ちで参加いただき、同じように子育てをされているみなさんと交流しながら、親子のコミュニケーションをはぐくんでください。

また、希望があれば妊婦の方も参加できますので、乳児の様子を見たり、先輩たちの話を聞きにきてください。

子育てで悩んでおられることがあれば、ご相談ください。

#### 【問い合わせ先】

保健福祉課 ☎86-1800  
子育て支援課 ☎82-1394

## 2009年を振り返る

Kyotamba

# '09京丹波の主なできごと

- 1月**
  - 町消防団が出初め式を開催(11日)
  - 新成人154人が出席する中、成人式を開催(11日)
- 2月**
  - 町高齢者を守るネットワーク協議会が発足(5日)
  - 町都市計画審議会が発足(10日)
  - 農業委員会委員選挙が執行され、新委員30人が決まる
  - 住宅用火災警報器の購入補助を開始
- 3月**
  - 町道大迫上乙見線道路改良工事の完成式を開催(14日)
  - 第2期障害福祉計画を策定
  - 高齢者福祉計画及び第4期介護保険事業計画を策定
- 4月**
  - 国民健康保険瑞穂病院が国保京丹波町病院に名称変更し新たにスタート(1日)
  - 定額給付金などの一斉申請受付を実施(12日)
  - 地域力向上事業交付金と住民自治組織によるまちづくり交付金を創設
  - 防災マップを作成し全戸に配布
- 5月**
  - 新型インフルエンザ対策本部を設置(16日)
- 6月**
  - 和知第2ブロック区長会(篠原、大迫、長瀬、塩谷、上乙見、下乙見)が町内で初めて地域力向上会議を開催(18日)
  - 町政懇談会を実施(6月11日～30日)
- 7月**
  - まちづくり講演会を開催(4日)
  - 瑞穂地区統合小学校準備委員会が発足(31日)
- 8月**
  - たんば夏まつり(5日)、みずほ夕涼み大会(16日)、わちふるさと祭り(25日)が開催される
- 9月**
  - 京都府総合防災訓練を実施(5日)
- 10月**
  - 和知診療所内に町介護療養型老人保健施設を開設(1日)
  - 国道27号下山バイパスの開通式典を開催(24日)
- 11月**
  - 町長選挙で寺尾豊爾氏が当選。町議会議員一般選挙で新議員16人が決まる(15日)
  - 松原前町長と上田前副町長が退任(19日)
  - 寺尾町長が初登庁(20日)
  - 選挙後初の議会を開催(27日)
- 12月**
  - 琴滝で「冬ほたる」が開催される(11日～24日)



名称を変更し、新たにスタートした「国保京丹波町病院」。



和知第2ブロックを皮切りに「地域力向上会議」が町内で開催されました。



京都府総合防災訓練では、町民が参加した避難訓練などが行われました。



待望の下山バイパスが開通。多くの地域住民が開通式に参加し盛大に祝いました。



町長選挙で初当選した寺尾町長が初登庁。

ホークスベリー市から5人の留学生が来町

# 深まる姉妹都市のきずな

町国際交流協会(野口久之会長)が、国際交流事業の一環として実施している「交換留学事業」。今回、11月19日から12月15日までの約1か月間、本町と姉妹都市交流を続けているオーストラリア・ホークスベリー市から5人の留学生が来日し、本町でホームステイを体験しながら、さまざまな機会を通じて町民のみなさんと交流を深め、日本文化などに親しみました。

## 「京丹波ほたるの里」が農業祭に留学生らを招待

農事組合法人「京丹波ほたるの里」(谷山建夫代表)が十二月六日、留学生やホストファミリーらを招いて、「ほたるの里特別農業祭・芋煮会」を谷・安井スポーツセンターで開催しました。

同法人は、日本の伝統文化に親しんでもらいながら、留学生と地域住民の交流を深めるために、地元の農業祭に留学生らを招待。留学生らは、地元の人たちの指導を受けながら、トラクターでの耕運作業やしめ縄作り、もちつき、竹馬などを体験し、日本の伝統文化を満喫しました。

また、交流会では、地元で収穫された農作物をふんだんに使った「芋煮」などがふるまわれ、留学生らは参加者らとの親交を深めながら、日本の味覚を味わいました。



丸尾会のみなさんに教わりながらしめ縄作りを体験する留学生(谷・安井スポーツセンター)



トラクターによる耕運作業を体験する留学生(安井地内)



もちつきを体験する留学生

- ① 歓迎会でホークスベリースングを歌う留学生(実勢公民館・実勢)
- ② 八つ橋づくりの体験をする留学生
- ③ 布ぞうり作りを体験する留学生(生涯学習センター・豊田)
- ④ 出来上がった布ぞうりを持って記念撮影をする留学生(生涯学習センター・豊田)
- ⑤ 送別会で参加者と一緒に歌う留学生(丹波マークス・須知)
- ⑥ 送別会で留学生にあいさつをする野口会長(丹波マークス・須知)

十一月二十一日に実勢公民館で行われた「留学生歓迎会」。歓迎会には、留学生やホストファミリーをはじめ、同協会役員、昨年度までの派遣生らが参加し、和気あいあいとした雰囲気の中で歓談されました。

また、留学生は滞在期間中、町内の中学校や須知高校を訪れ、児童・生徒たちと交流を深めるとともに、授業に出席して学校生活を体験。ほかにも、布ぞうり作り体験、安井区で行われた「ほたるの里特別農業祭・芋煮会」への参加、清水寺や広島などへの研修旅行などにより、広く日本文化を学びました。

十二月十三日の送別会では、お世話になったホストファミリーや同協会の会員、学校生活で知り合った友人らとの別れを惜しみながら、滞在期間中の思い出話などを語り合い、十五日には一か月間の留学生生活を終えてホークスベリー市へ帰国しました。

# 滞在期間中の 思い出は…

## ホストファミリーと 留学生にインタビュー

たにやま たてお  
谷山 建夫さんファミリー (安井)



子どもが巣立つてからは、地域の子どもたちと過ごす機会がありませんでしたが、ホストファミリーを引き受けたことで、ソイに出会いにきた子どもたちと接することができました。

また、日本の文化を知ってもらうために、ほたるの里の行事に留学生を招き、もちつきやしめ縄作りなどを体験していただきましたが、地域のみならずとの交流を深める場となり、よい思い出づくりになったと思います。今後もこのような機会があれば引き受けたいと考えています。

ソイ・マックミランさん

日本の文化が好きで、日本語や日本食などを体験しながら学ぶことができました。また、京丹波町の人はいい人ばかりで、たくさんの方々が優しく接してくれました。毎日とても楽しく過ごせたことに、本当に感謝しています。

さだもり じゅん  
貞守 順さんファミリー (橋爪)



ホストファミリーをしていなければ、エリザベスと出会うことがなく、一緒に暮らすこともできなかったので引き受けてよかったと思います。

エリザベスと家族のように過ごし、さまざまな体験ができたことはうれしい思い出として残っています。留学をきっかけに、エリザベスが再び日本を訪れることを願っています。

また、言葉が通じないなどの不安はありますが、一緒に過ごすとなんかになるので、多くの方にホストファミリーを経験していただきたいと思っています。

エリザベス・トンプソンさん

夢で願っていた交換留学に参加できたことは、本当にうれしい出来事でした。京丹波町は自然の美しいところですが、もっと素晴らしいのはみなさんのやさしさです。今回の経験を忘れずに、今後に生かしていきます。

のむらつかさ  
野村 司さんファミリー (本庄)



昨年、長女がサリーの家にホームステイをし、よくしていただいたので、そのお返しとしてホストファミリーを引き受けました。

この一か月間、ホストファミリーとしてサリーと接する中で、家族全員が素晴らしい経験をする事ができました。サリーと過ごした日々すべてが印象深く、よい思い出です。

これからもお互いの国のことを理解し、たくさん学べるように、交換留学を続けていただきたいと思います。

サリー・オブライエンさん

交換留学生として京丹波町を訪れたことを、とても感謝しています。京丹波町では、たくさんの方々に親切にしてくださいました。

いべ こうじ  
伊部 孝次さんファミリー (富田)



受け入れるまでは言葉の違いなどで不安がありましたが、レベッカは聡明で日本語を理解していたので、わたしたちの英語の先生になってくれました。

また、レベッカと暮らしていると、実の娘のように感じ、いつまでも一緒にいてほしいと思いました。これからは、京丹波町を第二のふるさととし、いつかまた訪れてほしいと思います。

交換留学を通じて、京丹波町を知ることができ、交流の輪が広がったので、よい経験になりました。

レベッカ・ブラウンさん

留学中は、日本の友達と遊びながら楽しく過ごし、さまざまな経験をしました。京丹波町では忘れられない思い出が多くあり、さよならを言うのが寂しく感じます。これからも交換留学が続くことを願っています。

まつ お こうじ  
松尾 弘二さんファミリー (下山)



ホストファミリーを頼まれたときは、英語が話せないで引き受けるか考えましたが、多くの人に助けを求めながら何とか努めることができました。スターリンは好き嫌いが多くて最初は困りましたが、コロッケが好きなきっかけに、いもを使った料理を作るようにすると喜んで食べてくれるようになりました。

スターリンがくつろいでいる姿を見ると、わが子のように思え、楽しい時間を過ごすことができました。

スターリン・トーマスさん

多くの人と出会い、そしてやさしく接してもらった中で、たくさんの方々に助けられました。京丹波町のみなさんはとても親切で大好きです。滞在中は楽しく過ごすことができました。



Dr's Message

# いきいき健康術 第29回

## 『胃カメラとバリウム検査について』

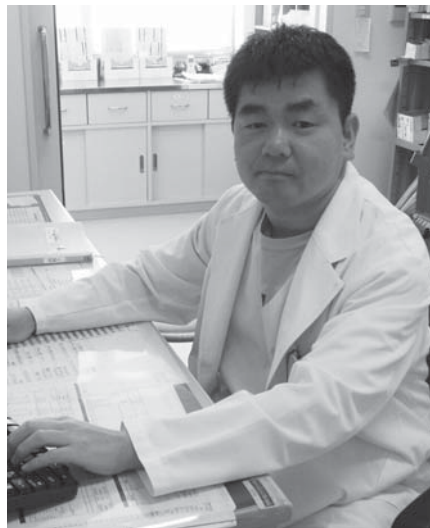
このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院の堀江隆介先生。胃がんなどの早期発見につながる胃カメラとバリウム検査についてのお話です。

胃カメラと聞いて、みなさんどのような想像をされるでしょうか。「しんどい」「苦しい」など、あまり良いイメージではないかもしれません。胃カメラを勧めると、「バリウム検査では駄目ですか」とよく言われますが、検査にはそれぞれ得意・不得意があります。

### 胃カメラとバリウム検査の違い

バリウム検査は、胃の中にあるがんの大きさや体との位置関係といった客観的なことを調べるの得意としています。一方、胃カメラはカラーで胃の中が見られるので、白黒のバリウム検査と比べると、腫瘍がほぼ平坦であっても周囲との色の違いで早期のがんが発見できるとともに、軽い胃炎なども分かります。これはバリウム検査で指摘することは困難です。

また、バリウム検査で胃炎が初期のがんか分かりにくい病変が見つかった場合、胃カメラで精密検査を受けることが多くあります。胃カメラでも微妙な病変が見つかることは多々ありますが、その場合は細胞の一部を採取して精密検査をすることで、一〜二週間前後で結果が得られます。このため、精密検査が必要な場合に大きな違いがあります。



内科医師 堀江 隆介先生(京丹波町病院) [専門:消化器内科]

### がんなどの早期発見に心がけて

胃カメラは、消化管の病気を正確に診断するためには優れた検査法であり、現在の医療において欠かせない検査となっています。また、昔の胃カメラと比べると、現在はカメラが細くなり、検査も楽になってきています。これまで受けたことのない方は、胃カメラ検査を受診し、がんなどの早期発見に心がけてください。

国保京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。  
(電話) 8610220

## 人の動き

### 副町長に畠中源一氏

十二月二十一日に開かれた議会定例会の本会議で、副町長に畠中源一氏の選任が同意されました。任期は四年。



畠中源一(はたけなかげんいち) 福知山市市民病院事務部長や同市教育委員会教育部長などを歴任。下大久保在住、六十歳。

### 教育委員(任期四年)

- 教育委員長/阿部定(中台)
- 同職務代理者/十倉一昭 (新任、安栖里)
- 【新任】櫻井博規(三ノ宮)
- 【退任】岩崎正子(委員長、富田)
- 大田喜好(大迫)

(敬称略)

### 監査委員(任期四年)

- 【新任】船越肇(有識者、水戸)
- 小田耕治(議会選出、本庄)
- 【退任】人見亮(豊田)
- 室田隆一郎(中台)

### 公平委員会委員(任期四年)

- 【再任】片山確(中)

### 固定資産評価審査委員(任期三年)

- 【新任】野間久雄(本庄)
- 【退任】山内勝次(升谷)

### 選挙管理委員(任期四年)

- 【新任】谷垣忠(上大久保)
- 鈴木修(補充員、保井谷)
- 小倉きくみ(補充員、蒲生)
- 【再任】大西新一(下山)
- 安井安郎(安井)
- 正田恭丈(小畑)

- 十倉さちよ(補充員、安栖里)
- 比村住ノ江(補充員、下山)
- 【退任】高畑満(八田)
- 荒井しづ江(補充員、須知)

### 人権擁護委員(任期三年)

- 【再任】片山加代子(大簾)

### 職員の配置

- 【異動】二月一日付
- 豊嶋裕美(住民課主事)

(敬称略)

## 地域の伝言板 わくわくBOX

昨年十一月に自宅の畑で採れたさつまいもです。見た目がハトやカモのように見えて、座ることができる珍しい形をしていたので投稿しました。



(奥戸義一・本庄)

投稿ありがとうございます。さつまいもを掘り起すときは、傷をつけないように苦労されたのではないですか。かわいらしい鳥の形をしたさつまいもを見ていると、食べるのがもったいないように感じますね。

(林淳子・高岡)

投稿ありがとうございます。以前に講演で「人生はいつでも今が旬」と聞きましたが、毎日を楽しく過ごすには、気持ちの持ち方が大切ですね。

このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたい・わたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、など、読者のみなさんの身近な情報発信としてご利用ください。  
【送り先】  
〒622-0292(住所不要)  
京丹波町企画情報課広報京丹波「わくわくBOX」係  
●ファックス/82-2500  
●Eメール  
kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

### 選挙制度百二十周年を記念して 総務大臣が感謝状を贈呈

丹波町選挙管理委員として貢献された藤田明夫さんが受賞



総務大臣からの感謝状を受賞した藤田さん

このほど、丹波町選挙管理委員会委員として活躍された藤田明夫さん(下山)に、総務大臣から感謝状が贈られました。

藤田さんは、平成四年六月から十六年七月までの約十二年間にわたり同委員を努め、平成八年六月からは委員長として選挙の管理執行および啓発事務に精励。今回、選挙制度百二十周年を記念して、多年にわたる功績に対し感謝状が贈られました。

受賞を受けて藤田さんは、「感謝状をいただき、選挙制度百二十年の歴史を踏まえて、尊い選挙権を大切にしなければならぬと改めて思いました」と話されました。  
おめでとうございます。

### 食を通じた 都市住民との交流

農家が教える郷土料理塾

「農家が教える郷土料理塾」が十二月五日、長瀬地内にある農林業体験公園アグリパークわちで行われ、地元農家や都市住民ら約六十人が参加しました。

この取り組みは、長瀬区と近畿大学農学部で組織する「元氣！長瀬の会」と「アグリパークわち」が主催し、都市住民が長瀬区の女性に教わりながら白菜漬げや郷土料理を一緒に作る中で交流を深めていくことを目的に、昨年度から実施。参加者は、漬物にするための白菜を収穫した後、塩加減などを教わりながら樽(二十リットル)の白菜漬げを仕込みました。また、参加者は、地元で獲れたイノシ



地元農家に教わりながら調理する参加者(アグリパークわち・長瀬)

シ肉や収穫したばかりの新鮮な野菜を使った「イノシシ汁」と、特産の黒大豆をふんだんに使った「黒豆ご飯」を地元女性と一緒に調理し、歓談をしながら山里ならではの味覚を味わっていました。

### 蒲生野中ホッケー部が日本代表選手を輩出

谷口捺美さんが日本代表選出を報告

平成二十一年度U-16ジュニアユース・オーストラリア海外遠征(十二月四日―十五日)の日本代表選手に選ばれた蒲生野中学校女子ホッケー部の谷口捺美さんと、選手団のコーチに選ばれた同校の久保克敏教諭が十二月一日、役場町長室を訪れ、寺尾町長と寺井教育長に出場報告を行いました。

谷口さんは、小学二年でホッケーを始め、同中学校ではキャプテンとしてチームを先導。昨年九月に福井県で行われた日本代表チーム選考会では、優れた基本技術と日本を目指すホッケーの戦術に合わせる事が出来る応用力を合わせ持つことが高く評価されて日本代表選手に選ばれました。谷口さん



町長から激励を受ける谷口さん(役場町長室・蒲生)

### オリックスバファローズの岡田監督が講演

生涯スポーツ講演会

「生涯スポーツ講演会(町体育協会主催)」が十一月二十八日、山村開発センターみずほで開催され、町内外から約三百人が参加しました。

講演会は、スポーツの楽しさややすばらしさを再認識し、生涯スポーツ振興の気運を盛り上げることを目的に、昨年度から実施。今回は、プロ野球選手として活躍し、現在はオリックスバファローズの監督を務める岡田彰布さんが「プロ野球を通じて体験したこと」と題して講演されました。

岡田さんは、野球と親しんできた幼少期の出来事やプロ野球選手時代の体験談、監督経験などを踏まえて、「野球を通じて、あいさつなどの礼儀も学んでいただき、信頼される人間になってください」とアドバイスを送りました。また、講演会終了後にはサイン会が



体験談などを交えて講演する岡田さん(山村開発センターみずほ・大朴)

開かれ、岡田さんは希望者からのサインや握手に快く応じ、楽しい雰囲気の中で交流が行われました。

### お互いが対等な立場で恋愛を

きらりセミナー☆Ⅲ

町と京丹波きらりネットワークの会が主催する「きらりセミナー☆Ⅲ」(町男女共同参画講座)が十二月十日、「和知中学校PTA親子人権学習」の一環として同中学校体育館で開かれ、同会会員や和知中の生徒・保護者ら約百十人が参加しました。

今回の講座では、立命館大学産業社会学部准教授の齋藤真緒さんが、「デートDV(ドメスティックバイオレンス)〜彼氏・彼女になる前に知っておきたいこと〜」と題して講演。齋藤さん



デートDVについて講演する齋藤さん(和知中学校・大倉)

は「お互いが対等な立場で恋愛をしないと、デートDVが発生しやすくなります。好きだからすべてを許すのではなく、自分自身が嫌なことや許せないことは、はっきりと相手に伝えることが大切です」と話した後、「恋愛にのめりこむのではなく、『何を望んでいるのか』を相手に何を望んでいるのかを伝えて、将来を見据えたつきあいをしてください」とアドバイスを送りました。



ワークショップで恋愛について語り合う生徒たち

### こんにやく作りで 親子のきずなを深める

親子体験教室

「親子体験教室二〇〇九」の第三回教室が十二月六日、町中央公民館調理実習室で行われ、町内の親子連れら約二十人が参加しました。

同教室は、親子でさまざまな体験をすることで、親子のきずなや参加者相互の交流と親ばくを深めることを目的に年間四回実施。今回、料理サークルすみれ(山田純子代表)と須知高校食品科学科の協力を得て、こんにやく作り体験が行われました。

参加者らは、料理サークルすみれの会員や須知高校教諭らの指導を受けながら、イモの皮むきからこんにやくが出来上がるまでの調理方法を体験。完成したこんにやくは、味噌田楽にして試食し、普段食べべているものとの弾力の違いなどを確かめながら、手作りの味を満喫していました。



こんにやく作りを体験する参加者(町中央公民館・蒲生)

なお、須知高校では、こんにやくイモの栽培研究に取り組んでおり、今回、安心安全な食の普及を目指した取り組みの一環として、こんにやくイモを提供されました。

### 須知高校が水車発電でエネルギー教育賞を受賞

エネルギー教育賞

須知高校が「第四回エネルギー教育賞」の優秀賞(高校・高専の部)に選ばれ、十二月三日に同校で表彰式が行われました。

同賞は、社団法人日本電気協会が発行する電気新聞創刊百周年を記念して創設され、環境保護をテーマとしたエネルギー教育の活動に取り組む全国の小・中学校、高校などを対象に、活動の継続性や地域との関わり方、創意工夫のあり方などを審査し、小学校、中学校、高校・高専の三部門で、最優秀賞一校、優秀賞五校を選考。今回、応募総数六十三校の中から、同校が高校・高専の部で優秀賞に選ばれました。

同校の食品科学科は、自然エネルギーの実習に積極的に取り組んでおり、仏主区の住民と協力して水車を利用したエコ発電の整備を行うなど、地域に



表彰状を受け取る生徒(須知高校・豊田)

根差した活動が評価されての受賞です。なお、同校は「第二回エネルギー教育賞」で同部門の最優秀賞を受賞されています。

### 高記録目指して力走

京丹波町駅伝競走大会

「第五回京丹波町駅伝競走大会」(町体育協会主催)が十二月十三日、和田地区内のふれあい広場を発着点とする周回コースで行われ、町内のスポーツ少年団や中学・高校のクラブ員などで構成された計三十三チーム(約二百三十人)が参加しました。

同大会は、小学生(男子(混合)と女子)、中学生(男子)、一般(男子と男女混合)の五部門で実施。出場選手は、沿道に集まった観客からのあたたかい声援を受けながら、高記録を目指して力走していました。

- 小学生男子の部 松山ガンバーズA
- 小学生女子の部 瑞穂女子ホッケーA
- 中学生男子の部 蒲生中ちーむやっちゃんEC



一斉にスタートをする第一走者(ふれあい広場・和田)

- 一般男子の部 須知高校硬式野球部A
- 一般男女混合の部 二等こしひかり

### 悪徳商法による消費者被害を防ぐために

消費者被害見守りパレード

「消費者被害見守りパレード」が十二月九日、和知地区全域を対象に行われ、町和知支部消費生活グループの会員ら二十三人が参加しました。

パレードは、近年、振り込め詐欺や悪徳商法などが多発している現状を踏まえて、地域の消費者被害の未然防止、被害の早期発見と迅速な対応を図ることを目的に、同グループが町社会福祉協議会和知支所、町民生児童委

員協議会和知支部、南丹船井防犯推進委員協議会和知支部に呼びかけて、今回初めて実施。参加者は、広報車など五台の車で和知地区全域を巡回し、「悪徳商法による被害が増加しています。悪質な手口にだまされないように細心の注意を払い、困ったときは一人で悩まず警察や役場に相談しましょう」と呼びかけました。

また、和知駅前をはじめ、パレード中に会った人々には、悪徳商法の手口や対策、クーリングオフ制度についての啓発チラシを配布し、注意を促しました。



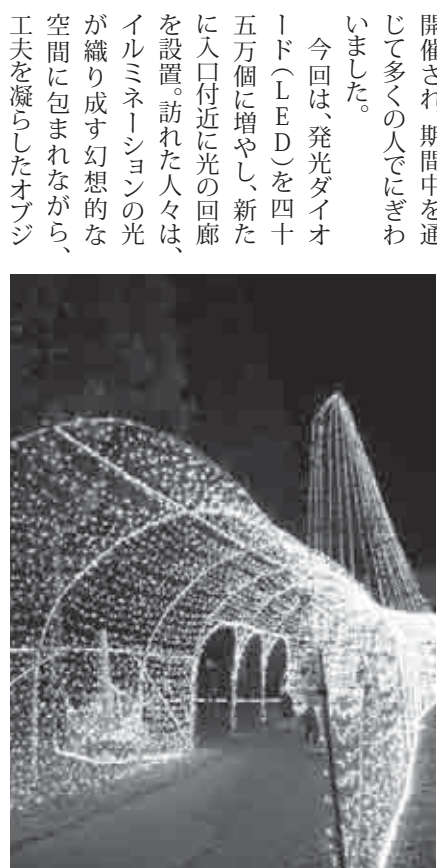
悪徳商法への注意を呼びかける参加者(本庄地内)

### 夢と感動を与える光のオブジェ

冬ほたる二〇〇九

名勝・琴滝を舞台にしたイルミネーションイベント「冬ほたる二〇〇九」(NPO法人丹波みらい研究会主催)が、十二月十一日―二十四日の期間で開催され、期間中を通じて多くの人でにぎわいました。

今回は、発光ダイオード(LED)を四十五万個に増やし、新たに入口付近に光の回廊を設置。訪れた人々は、イルミネーションの光が織り成す幻想的な空間に包まれながら、工夫を凝らしたオブジ



10万個以上のLEDを使って作られた光の回廊



冬ほたるのシンボルとして多くの人を魅了するオブジェ(琴滝・市森)

### 力を合わせて

豪快に作る大しめ縄

京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作り

尾長野区の「大しめ縄作り」が十二月二十日、同区内で行われ、区民ら約二十人が参加しました。

この行事は、同区内に京都祇園八坂神社の分社があり、お田植え祭が毎年五月末に開催されることから、その田で取れたわらを使ってしめ縄を作り、同神社へ奉納する地域の伝統行事。今回は、直径約七センチメートル、長さ約三・五メートルの大しめ縄など計十四本を区民が力を合わせて豪快に作り上げ、同月二十三日に奉納し、同神社の本殿などで飾られました。



区民が力を合わせて作り上げた大しめ縄(尾長野地内)

### 人権の大切さを伝えるために

人権週間における街頭啓発

十二月四日から十日までを「人権週間」として全国的にさまざまな取り組みが展開される中、本町では十二月四日、人権擁護委員や人権啓発推進協議会などから約四十人が参加し、町内の道の駅などで街頭啓発を行いました。

この取り組みは、広く町民に対し基本的な人権の尊重と擁護を訴え、人権問題への理解と認識を深めるとともに、問題解決に向けた取り組みを推進することを目的に実施。委員らは、五班に分かれて街頭啓発を行い、行き交う人たちに人権の大切さを伝えました。



街頭啓発を行う委員(道の駅「和」・坂原)

### わたしたちの町

人口	16,942(-33)
男	8,017(-20)
女	8,925(-13)
世帯数	6,493(-2)
1月1日現在 / ( )は前月比	



まちの  
元気人

平成二十一年秋の叙勲・旭日双光章を受章

谷

たにみねお

峰男

さん(76歳)

坂原

森林組合が中心となって

地域ぐるみで林業の活性化につなげたい



「府や町の多くの森林組合の職員に支えられたおかげで章をいただくことができました。職員と共にいたった草なので、本当にうれしく思います」と話すのは、昨秋に叙勲・旭日双光章を受章された谷峰男さん。

谷さんは、昭和五十八年二月から六十二年二月までの四年間、和知町助役として町の発展に貢献。退職後は、和知町森林組合副組合長に就任し、平成十年二月には同代表理事組合長、十八年十二月から現在に至るまで京丹波森林組合代表理事組合長として活躍。また、府森林組合連合会代表理事副会長や府林業改良普及協会会長、府林業労働支援センター理事長など数々の役職を歴任し、現在も全国水源林造林協議会理事などを務められています。

これまで谷さんは、行政現場での経験や林業に対する豊富な知識を生かして、いち早く和知地区の森林整備に取り組み、府内における先進林業地の地位を確立。平成十八年十二月の三町森林組合の合併では、「一町域の森林は一森林組合で効率的に守っていく」との理念のもと、各組合が抱える多くの課題に対して英断を持って対処し、京丹波森林組合の誕生に卓越した実行力を発揮されました。

長年、林業に携わった経験から、「山は収入を得るための生産財として考えられてきましたが、木材価格が下落

した現在、地球温暖化防止などの環境面での役割が重要視され、人間の生命を守るための環境林を育てる取り組みが進められています。山との関わり方は変わっても、人の暮らしは山の恩恵を受けながら成り立っているんですよ」と谷さん。時代と共に移り変わる林業の現状と想いを話されました。

子ども時代を振り返り、「昔は山が遊び場だったので、山と親しむ機会が多くありました。昔のように、子どもたちが山で遊び、たくさんのことを学べるように、里山づくりに力を注ぎたい」と谷さん。今後の林業について聞くと、「個人の力だけで林業を守ることとはできないので、森林組合が中心となり、行政の支援を受けながら、地域ぐるみの取り組みを展開することによって、林業の活性化につなげたい」と熱く語られました。

編集  
後記

年末の慌ただしい中、締め切りの関係などで息子が起きている時間に帰れない日が続き、久しぶりの休日に顔を合わすと、これまでになくよそよそしい態度で編集子を見つめる息子の姿が、抱っこをしたり、話をしたりしてコミュニケーションを図るうちに、これまでどおりの笑顔に戻り、ほっと一安心しましたが、子どもの素直な一面に驚かされました。今年こそは、子どもの気持ちかわかる父親として成長できるようがんばりたいと思います。(K)